

「火星探査」をテーマにした国際交流

附属中学校・教諭 福田 哲也

附属中学校はMTPに 取り組んでいます

本校は、二〇〇四年度MTP（マスタートeacherチャーズプログラム）に取り組んでいます。MTPとは、日米教育委員会（フルブライト）が主催しているサイエンス系の国際交流プログラムです。おもな内容はアメリカの学校とペアを組み、共通のテーマでお互いが学習、研究し、交流するというものです。本校では、昨年に引き続き、「火星探査」をテーマにして、アメリカのアイオワ州のウエストブランチミドルスクールと交流しています。そして、三月には担当教諭がアメリカの交流校を訪れ、七月には交流校のイバーラ先生が本校に来られました。

ウエストブランチ ミドルスクールを訪問して

三月には、本校教諭の今辻、福田ならびに本大学の森本教授が米国の交流校に訪問し、授業の視察や生徒たちと交流をしました。また、慣れない英語で、日本文化を紹介したり、理科の授

業もおこなってきました。滞在中は、アメリカと日本の教育のシステムのちがいに對し驚きの連続でした。しかし、子どもたちが元気に学習している様子を見て、共通する面も多々感じることができました。



米国の学校での授業

「火星探査」をテーマにした活動

本校科学技術部は、「火星探査」をテーマにして取り組んでいます。火星の環境を調べ、火星の模型をつくり、その上を自分たちが開発したローバー



火星探査機のモデル

とよぶ探査機を動かすことをおこなってきました。生徒たちは、さらに自分たちの創造力を生かして、悪路やけわしい山谷でも動くことのできるローバーを開発しています。今回、来日されたイバーラ先生も本校生徒のローバーの出来にたいへん驚かれたとともに大きな賞賛をいただきました。また、この活動は、スペースシャトルの事故で亡くなれた宇宙飛行士の遺族の方が設立された基金でおこなっており、大きなつながりを感じています。

イバーラ先生の授業 「POP CORN」

イバーラ先生にも実際に授業をしていただきました。「二百九十三個のポップコーンがちょうどはいる入れ物をつくるためにはどのようにすればよいか」という授業でしたが、生徒たちは今まで培ってきた数学力や経験をもとにそれぞれのチームで議論しながら取り組みました。もちろん、この授業のねらいは、たんに入れ物をつくることではなく、いかにして問題を解決するかという科学の目を育てる授業でした。実際にいくつかの班はぴったりはいる入れ物をつくり、大いに盛り上がりました。また、

この授業において、一条高校の学生さんが通訳のボランティアをしてくれました。



ポップコーンの授業